

上一色中学校応援団実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

上一色中学校長 石上 和宏

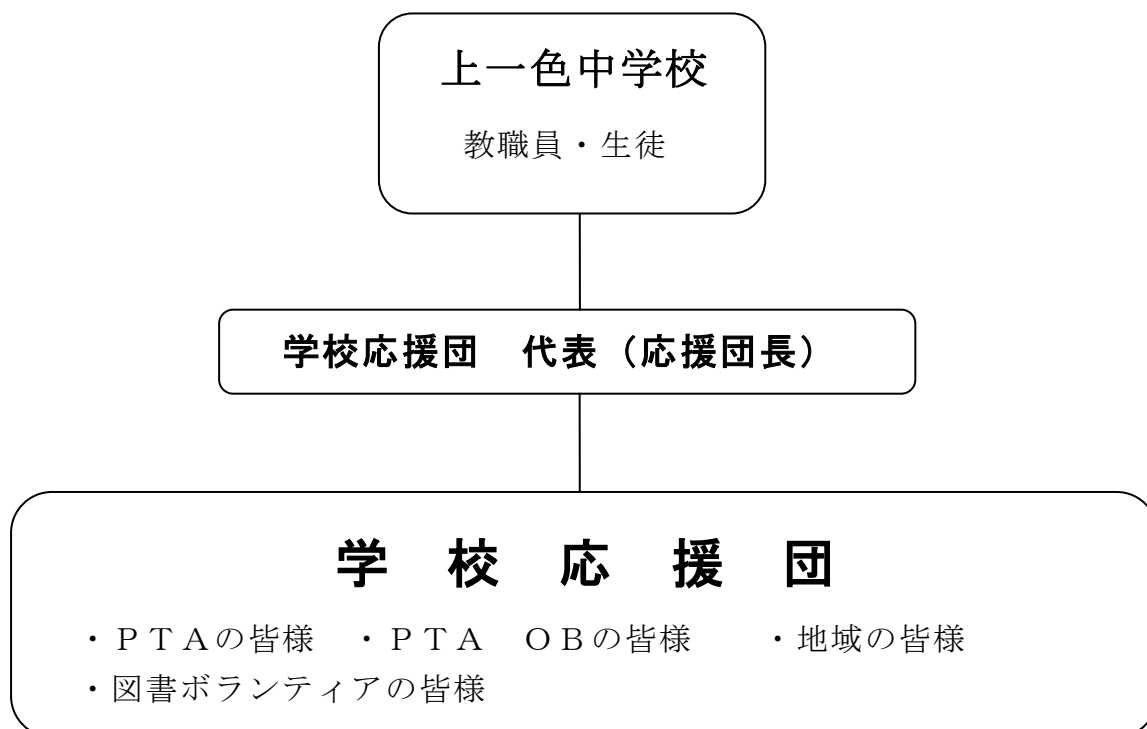
代表(応援団長) 菅原 一之

2 今年度の活動内容

応援団の種類	応援団の名称	活動内容
読書活動 (図書ボランティア)	学校図書館整備	○学校図書館の改装および本の整頓
	学校図書館開館時の管理	○放課後の学校図書館の貸し出し、返却業務など管理業務
環境整備	花いっぱい	○花壇の手入れ

昨年度からの活動(図書の整理、花壇の整備)を継続しつつ、さらに充実を心がけ活動しました。今年度はPTAや地域の皆さんから「図書ボランティア」を募り、放課後の学校図書館の管理をお願いし、開館時間の延長を行いました。また、図書の修理や、図書館のミニ改装のお手伝いもやっていただきました。

3 学校応援団組織図



4 今年度の成果と今後の課題

<成果>

今年度は、今までの図書の整理・花壇の整備の活動に加え、放課後における学校図書館の管理をお願いしました。学校だよりや地域の回覧板で呼びかけたところ、現在5名の図書ボランティアの応募をいただき、毎日の放課後開館が実現しました。

<課題>

昨年の活動実績を上回ることができた半面、活動してくださる団員数の不足という課題は残りました。さらに学校からの呼びかけの方法を工夫し、応援団の活動の幅を広げ、様々な人が関わられるようにしていきたいと思えます。

5 代表より

「百聞不如一見」とは、いささか一面的であると私は思う。それが全てではないにしても、数多く「聞くこと」も知見の有力な一要件に違いないからです。しかし、「聞くこと」は、客観ではなく主観的に納得できればよいという事になるわけです。

「百聞不如一見」は次のように続きます。「百見不如一考」自分で見た事象を自らが実証し本質を探求するには、多くの時間や労力を要します。そこで、「コストパフォーマンス」という許容範囲内で、知見獲得の手段を選択するのが最良の方法と言えましょう。知見を得るための「聞く」「見る」を補う手段が、物事を考察する基となる「読書」や、「ビジュアル視聴」だと考えます。

先頃本校で行われた研究発表会の報告は、『読書が学力の下地となり、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く、生きる力を身につけていく』と高らかに謳いあげています。緒についた本校の読書教育・指導は課題も多くあるのも当然で、『読書指導の効用と学力向上に対する関わりを客観的に評価する手法さえ開発しなければならない』と報告者は述べているのです。

小学校で、読書を楽しみ・読書に親しみ、中学校で読書力を伸ばし、高等学校で読書力を高める…この「読書」を活用し人生を歩み、年齢とともに思慮深くよき社会人となる生徒たちが、目的の港を目指し航海する船長に羅針盤が必須のように、「読書」という羅針盤を伴いに大海原を駆けて欲しいのです。

さあ、生徒たちが身近な「百聞、百見」を補いながら、バランスよく人生の航路突き進んで行けるお手伝いに、力を尽くそうではありませんか。

6 学校長より

本校の学校応援団は図書館のサポートをはじめ緑化を中心にご協力をお願いしています。本年度は昨年からの課題であった「図書館を開室する際のお手伝い」を実現すべく、図書ボランティアを募集、協力を依頼し、夏休み中の打ち合わせを経て、2学期からの毎日の放課後開館が実現しました。

また、図書ボランティアの皆様には定期的に図書館の整理や、本の改修にもご協力いただきました。昨年末に行った「図書館プチ改装」では、平成23年度に大改装した図書館内の本の配置を全面的に改め、赤木かん子先生の監修のもと、書庫の移動、表示替え、図書の移動と、年末であるにもかかわらずお手伝いいただきました。

最初は放課後の図書館利用者はほとんどありませんでしたが、生徒の図書委員会の広報活動により徐々に生徒に広まり、まだ少ないですが放課後に図書館を利用する生徒も見られるようになりました。

図書館以外でも緑化でもご協力をいただいています。来年度もご協力をよろしくお願ひします。